

CF!スタッフ
おすすめ
妙に気になるこのお店



Foods Bar 菜屋
フーズバー しおりや



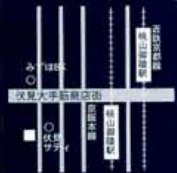
目移り必至の個室&料理
五輪より熱い? 菜屋の夜

先月は白熱したアテネ五輪キャンペーンを展開した同店。だが店内は違う熱気で冷めやらぬ模様。どうやらその熱源は個室からのようで。誰しも食べる時の空間は重要とは言え、ことカップルにとって二人だけの空間はより大事なものです。ならば当然、竹の個室(8名席)に真っ赤なロフト(10名席)、メタリックなカップルルームなど大小取り混ぜ全115席を誇る同店はまさに夢のハコ。その上、創作料理130種とくれば、今宵も熱〜い二人で賑わうのは必定的かと。



靴を脱いで上がる店内は仕掛けが満載の造り。ろおじ風の通路を挟んで二つの「竹の間」は完全個室仕様で人気。奥の「宴の間」は30人のキャバを誇り宴会等にも対応

■京都市伏見区御堂前町62-1
(伏見サティ前)
☎075-601-1663
●11:30~14:30
17:00~24:00
(L.O.23:30)
無休



POWER PLAYSOUND

Music is moistened our life.
Tasteful album is here.
W'd like to find your recommended one.



Blush -チャリンコぶっとばす!-/雷鼓
Sony Music 1020円(税込)

「今回のシングルに出せる力を全て注ぎ込んだ」という7月28日にリリースされた清涼感たっぷりなサードシングル。「知床は雷鼓くて、ホントに夏しか自転車に乗れない(笑)。だから僕らの中では自転車=夏なんですよ。思わず北海道の広大な自然を自転車で走り抜ける姿を想像させる一枚



Q/Mr.Children
TOY'S FACTORY 3058円(税込)
中学2年のときに初めてバンドを組んだんですけど、その時やったのがミステルのコピー。このアルバムはミステルの中でも一番好きですね。今はバンク・オールナチ系をよく聴くけど、改めて聴くと歌詞・曲共に本当にいいなあ、と思わされます。(V/L)



Three Dollar Bill, Yell\$ /
limo bickit
universal music 2196円(税込)
雷鼓は最初リンプのコピーがやりたくて結成したんですよ。結局一回だけリンプのコピーでライブして半年間活動休止しちゃったんですけどね(笑)。でもリンプが存在しなかったら雷鼓は結成してなかったかもしれませんね(hidemix)



RESPECT/RHYMESTER
FILE RECORDS 2730円(税込)
御路にライムスターが来てライブ見に行ったんですよ。ずっと日本語ラップって格好悪いと思ってんだけど、彼らのライブ見て覆りましたね。やっぱりライブじゃラップのかけ合いが客との一体感を作るんですよ。(V/L)



オホー
北海道・知床こそボクらのルーツ

雷鼓 hidemix(右) ハル(左)
<http://www.raico.net/>

往年の名曲のカバーが流行る中、今年1月にメジャーデビューしたミクスチャーバンド・雷鼓も例に漏れずメジャーデビュー第一弾シングルは名曲「知床旅情」だった。だが、彼らの場合はただの名曲カバーという訳ではなかった。雷鼓のメンバーはボーカルのhidemixとギターボーカルのハルを中心に6人全員、北海道・知床出身。彼らが幼い頃から聴いて育った歌、ずっと口ずさんできた歌なのだ。「カバーしているというよりも、むしろ自分たちの歌になってます(笑)。自分たちの町の歌、そして僕らが知床出身だということをまずは認知して貰いたくて」とhidemixはいう。それゆえデビューシングルには名刺代わりの「知床旅情」を、続けてメジャーの舞台に立つ自分たちを戒めるようなセカンドシングル「ALIVE」、そしてサードシングル「Blush-チャリンコぶっとばす!」をリリースした。

多くのミュージシャンは当たり前のように東京へ活動の場を移すのだが、雷鼓の場合は違った。彼らは札幌に拠点を置いた。北海道を離れようとはしなかったのだ。その理由をハルは「メンバー全員が北海道に残ることに賛成でした。全国ツアーで初めて北海道を長い期間離れたんですよ。そこで知床の良さがグッと明確に見えてきて、僕らの故郷の壮大なスケールに負けないバンドになりたいって素直に思えるようにもなりましたね」という。その思いはリスナーだけでなく地元・知床にも伝わった。全国ツアーの最中、6月には知床の世界自然遺産登録を目撃し、活動する地元の実行委員から「知床音楽大使」を任命されたのだ。

そんな微笑ましいエピソードを持つ彼らだが、純朴な印象とは裏腹にライブでは至ってハイテンションなステージを見せる。ライブに対する姿勢をハルはこういう。「ライブは一期一会、今は僕たちを初めて見に来てくれる人が殆どだから、どうやってステージとフロアの壁を取り払うかをずっと考えてますね。僕たちの魅力の一つでもあるラップは雷鼓とお客を繋ぐことのできる武器」そして「関西の人たちは最初から僕らにフレンドリーで、ライブはホント盛り上がりやすいですね」と。

最後に京都の印象についてhidemixに訊くと「北海道は歴史が浅いけど、京都は1200年の歴史がある街。趣深いよね。まだ京都でライブをしたことがないけど、いつかは絶対京都でやりたい」そう話してくれた。京都のライブハウスに知床の風景が広がる日は近いのかもしれない。